

◎第3回文化審議会等における新しい仕組みのイメージに対する主な意見		参考資料 1
カテゴリ	発言内容	発言委員(敬称略)
(1)対象者の範囲、対象分野の範囲		
①対象者の範囲	・ACTは門戸を広げた一つのプラットフォームとして、既存の団体や学校、伝統工芸の団体などにも入ってもらえばよい。	長澤
	・県民全員が参加していくという方向性を考えると、ACTの存在は、発表者だけではなく、例えば、アートイベントを起こしたい企画側の人なども十分に入っていける場になると考える。	米田
②対象分野の範囲	・伝統工芸も含めていろいろな団体がある。	清原
	・獅子舞などの伝統文化も取り入れていけば、富山版アーツカウンシルの特色が出る。	島添
	・歴史的・伝統的な分野の芸術がある一方で、試行錯誤を繰り返して新たに生まれるものもある。 ・県西部ではクラフトイベントの活動も活発に行われている。	長澤
	・祭りに関して、郷土芸能部では、八尾高校は「おわら」、南砺平高校は「むぎや」を行っている。	西島
(2)ACT、TAC、助成事業選考委員会の設置について		
①ACT	・ACTが受け皿となり、富山県にはこんな素敵なアーティストがたくさんいるのだと広く紹介して知ってもらえるようなプラットフォームになればよい。	青柳
	・ACTに参加したときに、若手アーティストにとって、何らかのリターンや利益があったほうがよい。もっと活動してみようという契機になる。	三宮
	・ACTが、経済界と文化界の交流のきっかけとなる場になればよい。	武内
	・企業と芸術家たちは、現在関係性や繋がりを全く持てていない。しかし、今日示されたこの図の中には、企業・経済界をつなぐというかたちがちゃんと書いてある。ここを煮詰めていけば、美術連合会だけの話ではなく、社会に美術というものを共有していくヒントや入口になる気がしている。	藤井
	・TACは駅であって、駅の中で電車を準備したり、目的地を準備したりという役割を担い、ACTがホームなのかなと。ホームに入ってくる人は、自分の意志で入ってくる。そこにはヒエラルキーなどは関係なく、みんながそこに参加することができるということ。団体ではなくて、ゆるやかなネットワークというイメージが近いのではないかという気がした。	米田
②TAC	・県外審査員のような外部審査員を迎えたときに、本当に富山の実情や富山の芸術家たちの努力や取組みが分かったうえで審査されるのかという、危惧を感じた。	伊東
	・トヤマアーツカウンシル(=TAC)が面倒を見たり、いろいろな指導をしたり、助言をしたりするような、その対象になるものをアーツコレクティブトヤマ(=ACT)という、誰でも入れる一つの大きな塊にしようというアイデア。 ・ACTを運営するためには審議機関が必要なため、具体的な機能を決断したりするような組織としてのTACが、ACTをきちんと采配していく二重構造で成立すれば、富山県は後進県の状態から新しいところに一歩出てくる。	長澤
③助成事業選考委員会	・ACTという文化芸術団体のアーティストの集合体の中に助成金を審査する機関が設置されているが、助成金の対象となりうる団体や個人が組織する団体の中に、助成金を審査する機関があることになる。助成金の観点で言うと、公平性について疑問を感じる。また、助成金の対象がACTメンバーに限られるという点においても、公平性の観点から疑問に感じる。	清原
(3)主な取組み(機能)		
①情報発信・共有 (webサイトの構築・運用)	・アーツカウンシルは富山の活動をもっと県民や県内外、海外に広めていくような、情報周知に役に立つ役割である。	伊東
	・個人の活動について言えば、アーティストとしてやっていくには、作品がたくさん売れない限りは、やはりアートフェアやアートビエンナーレに行きたいと思うもの。そうした活動を後押しできるような情報を蓄積したり、各地で行われているアーティスト・イン・レジデンスに派遣できるような情報などを提供したりできればよい。	佐部利
	・県は全県下の状況を把握しているわけではなく、市町村から情報を収集している。ACTはそういった情報収集のターミナルにもなる。	長澤
	・ACTは色々な芸術分野における課題を吸い上げたり、それを行政・県全体で共有できるような発信力を持つ場になる可能性を感じている。	米田
②相談支援	・アーツカウンシルはいろいろな困り事に対する課題解決型の、助言というよりも相談窓口のような相談機関みたいなもの。	伊東
③助成金交付	・ただ補助を受ける側としてではなくて、自分の活動にどう活かしていけるのか、その活動を通してどういう広がりが生み出されるのか、県民や市民にどう還元をして文化度を上げていくのか。県全体のウェルビーイングがどうやって上がっていくのかという大きなテーマに向けて、ブレずに進めていくことが重要。	武内
④マッチング	・アーティスト側としては、ACTで何をして欲しいのだろうと考えてみると、発表の場が欲しかったりと思うので、県や自治体が場所を貸してくれるとか、こういうイベントがあるから参加してみませんかということとか、県に放映をしてもらいたいなどというときに、お手伝いしてもらおうとよいのかなと思った。	内山
	・ACTのような幅広い分野の関係者が集う場を作ることは、いろいろな連携が生まれる可能性が広がるので、非常に有意義だと思った。文化芸術、伝統工芸だけでなく、さらに経済界や福祉、観光、教育、まちづくりといった分野まで広がれば、さらによいのかなと感じた。	清原
	・例えば、今回の県美術館の展覧会は非常に子どもが見ても楽しめる美術展だったが、学校での利用度はどのくらいなのかなと思った。そういったときに、美術館を使う調整に動いてみたりとか、ときには商店街や青年会議所とタイアップしながらアート活動を展開していくとか。	佐部利
	・県内の美術館や各種ギャラリー、文化会館、ホールなどにも入ってもらい、個人のアーティストに、作品を展示してくださいとか、展示できますよとか、場所代はこうですよとか、少し割引できますよとか、プラスマイナスのところを調整していただくようなことができればいいと思った。双方、利益を生み出せるようなものになるのがよい。	三宮
	・(県有施設など)大きな空間で展覧会をやらせてもらえれば、若い人たちがやってくる可能性は十分あると考えている。	藤井

カテゴリ	発言内容	発言委員(敬称略)
(4)登録制のあり方		
登録制	・ACTは振興対象を網羅するというような記載があるが、 ACTに入らないと助成対象にならないのか 、というようなことも懸念されるので、そういった懸念が取り除かれるように、今後、本県ならではのものを協議して作り上げていくことが必要ではないか。	伊東
	・「会員になっていないと助成金はもらえないのか」といった懸念については、公募制にすればよく、我々がこれだけの予算を皆さんにチャレンジしていただきたいと問いかける母体になればよい。	長澤
	・若い世代がACTに参加するためには、 どのような手順を踏めばよいのか、また誰がその窓口となり案内していくのか といった点について、学校現場からは分かりにくさがあると感じた。	西島
	・ACTがあって助成していただけるならよいと思うが、 個人で一生懸命やっているすごい人に対して会員になってください ということになると、 会員になりたくないと思う人もいるのではないか 。	宮崎
(5)財源のあり方		
財源	・ 基金の創設や自主財源 をどうするかということを含めてまとめられたらよい。	長澤